

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 近藤 真由子

本研究は、糖尿病患者の肝脂肪化と肝線維化の頻度や、それらに関連する因子を明らかにするため、糖尿病教育入院患者を対象にした臨床研究であり、下記の結果を得ている。

1. 本研究は、糖尿病教育入院患者 289 症例を対象にしており、その内訳は 1 型糖尿病 31 症例、2 型糖尿病 258 症例であった。超音波上、脂肪肝を認めた症例は、1 型糖尿病では 29.0%、2 型糖尿病では 71.7%であり、2 型糖尿病において有意に多かった($P < 0.001$)。

2. FibroScan®を用いて、肝脂肪化（肝脂肪蓄積度）・肝線維化（肝弾性度）を定量的に測定した。2 型糖尿病において肝脂肪蓄積度高値に関連する因子を調べるために、ロジスティック解析を用いて解析したところ、BMI、中性脂肪が有意な因子として抽出された。この結果から肝脂肪蓄積度高値には肥満がかかわっていることが示唆された。

3. 肝弾性度高値を認めた症例は、1 型糖尿病では 6.5%、2 型糖尿病での割合は 22.1%であった($P = 0.06$)。2 型糖尿病において肝弾性度高値に関連する因子を調べるために、ロジスティック解析を用いて解析したところ、BMI、GGT、血小板数が有意な因子として抽出された。インスリン未使用群においては、HOMA-IR、GGT、血小板数が有意な因子として抽出された。この研究の主要の結果は、2 型糖尿病患者における肝弾性度とインスリン抵抗性との関連を示したことである。

4. 経皮的背景肝生検例に関して検討を行い、背景肝生検の病理所見と肝弾性度との関連に関して検討がなされた。

以上、本論文は、糖尿病患者の肝脂肪化、肝線維化に関連する因子を明らかにした。糖尿病患者における肝脂肪蓄積度・肝弾性度測定による肝脂肪化・肝線維化のリスクファクターの検討に関しては今まで報告が少なく、本研究は、糖尿病患者における肝疾患の疫学に有益な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。